

本年度の学校評価

本年度の 重点目標	災害に対する意識を高め、校内体制を確立する。 効率的・効果的な業務改善を行う。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
一人一人の 教育的ニーズに 応じた指導・支 援を推進する。	・個別の指導計画や学習の内容段階表による授業づくりを行い、指導と評価の一体化を図る。 ・計画的・組織的な交流及び共同学習を積極的に推進する。 ・校外学習等の体験学習に積極的に取り組み、社会性や共に生きる力の育成を図る。 ・小学部から高等部までの一貫したキャリア教育の充実に努める。 ・児童・生徒会活動に組み、問題解決能力の育成や成就感の獲得に努める。 ・外部専門家や関係諸機関（学識経験者、医師、看護師、PT、OT、ST等）との組織的連携を図る。	・「学習の内容段階表を活用した各教科等を合わせた指導の授業改善—チームで取り組む授業づくり—」というテーマで校内研究に取り組む。 ・学校間交流および居住地校交流は、児童生徒の主体的性を重視し、直接的な関わりを促していく。 ・各学部、各教科の学習が効果的に行えるように、個別の指導計画の年間指導計画に記載するようにする。 ・卒業後の必要な力について、積極的に発信し、キャリア教育の視点を学習活動に取り入れていくように促していく。 ・児童・生徒会活動の目的（校訓「エチカ」を基にどんな学校にしたいか）と目標（目的を実現するために何ができたらいのか）を児童生徒と教員が協力して設定し、そこに紐付けた具体的な活動を児童生徒が主体的に展開する。 ・刈総セラピストとのケーススタディなどを通して、外部専門家と意見を出し合う機会を重ねることで専門性の確保に努め、助言内容を生かした多角的な視点での授業改善につなげる。	・各部二～四つのチームを編成し、教職員間での話し合いを通じて授業改善を繰り返す。各学期末には報告会を設定して、各チームの取組について共有を図る。 ・交流及び共同学習は、相手校と密に連携を図りながら活動内容を検討していく。 ・各部の校外学習が重ならないように、学校全体の計画が分かる一覧表を作成する。また、医療的ケアが必要な児童生徒も安全に参加できるように、看護師とも連携し、予定の管理を行う。 ・小・中学部の段階から卒業後の生活が意識できるように、高等部を見据えた体験活動や作業学習を検討していく。 ・教員は児童・生徒会活動が目的と目標に向かっているかどうかを確認し、必要に応じて助言する。また、児童生徒が成就感を得られるように、活動ごとに適切な振り返りを行う。 ・校内職員での実践事例検討の機会を設定し、複数の視点での実態把握や授業改善の経験を積み重ね、外部専門家の助言内容等を他の児童生徒の指導や支援にも汎化できるよう共有方法を充実させる。
信頼される 学校づくりを 推進する。	・保護者、医療・福祉関係者、施設・事業所等関係者、地域住民等による学校評価を実施し、学校運営の改善に努める。 ・保護者・地域の各関係者等との情報のやりとりを密にし、教育活動の充実に努める。 ・地域における特別支援教育のセンター的機能の整備・充実に努める。	・保護者・教職員アンケートの分析や学校評価を多角的な視点で行い、まとめたものを学校運営の改善に生かしていく。 ・要請訪問相談（かりとく相談）、障害乳幼児相談（かもめ相談）などにより、地域の小中学校や障害のある乳幼児の保護者などに積極的な支援を行う。 ・8月に実施する刈谷市特別支援教育研修会では、特別支援教育に関する今日的な課題を提起し、特別支援教育への理解を深める会になるように実行委員会で十分に検討していく。	・学校関係者が評価をしやすいように、行事等の折に児童生徒の学校生活を参観していただくとともに、学校の取組を分かりやすく紹介するように心がける。 ・来談者が相談のよさを実感する相談の在り方を考えていくとともに、様々な相談に対応する教員の専門性の向上を図る。 ・刈谷市特別支援教育研修会は半日日程で行うことで、参加者が無理なく参加できるようにする。

本年度の 重点目標	災害に対する意識を高め、校内体制を確立する。 効率的・効果的な業務改善を行う。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
一人一人の 安全・安心 な教育環境 の整備に努 める。	・災害等に対する組織体制を整え、健康・安全教育の推進に努める。 ・医療的ケアの安全な実施体制の整備に努める。 ・食に関する指導の充実に努める。	・災害等の非常事態に備え、防災・防犯訓練や研修等を実施し、課題を見出す。 ・災害時の医療的ケアのある児童生徒の待機場所や電源確保、避難時の動き方について整理し、職員に周知する。 ・食に関する指導の全体計画の作成をとおして、年間指導計画に反映できるようにする。	・危機管理マニュアルの内容を精選して、活用しやすい形に変更する。福祉避難所開設時に、教職員がどのように動けばよいかについて整理し、分かりやすく示す。 ・災害時の医療的ケアのある児童生徒の配置や電源位置を視覚化する。 ・食に関する指導の全体計画の作成の他、年度末には振り返りや次年度に向けての修正等をする。
効率的・効果的な業務改 善 を 進め、授業づくりの充実に努める。	・Teams や WinBird を積極的に活用し、情報の共有化による業務の効率化を図る。 ・教員の資質向上のため動画コンテンツを作成し、個々の裁量による研修の進め方を推進する。 ・校務分掌間の連携を密にし、業務の平準化に努める。	・情報の共有においてグループウェアを積極的に活用することで、会議や打合せの時間を削減していく。 ・全校研修及び任意研修の様子を動画に撮り、かりとく動画視聴システム上にアップする。適宜教職員に呼び掛けて、研修の実施を促す。 ・各校務分掌における繁忙期に、他の校務分掌が応援をするような組織風土を醸成する。	・連絡事項等をグループウェアに記入する際には、誰もが分かりやすい内容や形式になるようにルールを明示する。 ・全校研修は、名簿を付けて参加者を把握し、当日参加できなかった教職員には、期限を設けて動画視聴による研修を行うように促す。必要に応じて動画を更新するように定期的に呼び掛ける。 ・分掌業務の精選を進めるとともに、引継資料を作成して業務を明確化していくことにより、校務分掌の業務負担を軽減する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・一人一人を大切にした教育の在り方 ・関係機関との連携方法 ・信頼される学校づくりの展開状況 ・医療的ケアの安全・安心なシステムの構築状況 ・学校の危機管理体制	